

YAHATA WORK SHOPS 2019-20

歴史と未来を考える

八幡ワークショップ 2019-20

KEYAKI TERRACE YAHATA

九州国際大学 三輪ゼミ

西日本工業大学 水野研究室



1901 年、現在の北九州市八幡東区では全国初の官営製鐵所が操業を開始し、工業都市としての栄華を極めながら住民生活も急激な賑わいの時代を迎えました。また戦後には、当時の八幡市長・守田道隆によるイニシアティブのもと戦災復興事業に着手し、このまちで暮らすひとの目線に立った都市計画が推進されました。現在の八幡には当時から育まれてきた文化的な施設や土壌が、先人たちの知恵や想いと共に色濃く根付いています。

私たち KEYAKI TERRACE YAHATA は、この地域の文脈を踏まえ、次の時代へ向けてさらに発展させるため「Create(つくる)」「Connect(つなげる)」「Collaborate(つながる)」という 3 つのコンセプトを掲げ、企業団体・行政機関・大学・自治区会など多種多様なメンバー総勢 13 団体から構成されているという特徴を活かしながら、このまちならではの多世代・多文化に及ぶ魅力発信と賑わいづくりに取り組んでいます。

この度、日頃から地域の大学として八幡駅前周辺の地域活動に尽力なさっている、九州国際大学現代ビジネス学部地域経済学科地域づくりコース・三輪仁ゼミと、八幡の建築史の調査研究にも尽力なさっている、西日本工業大学デザイン学部建築学科・水野貴博研究室にご協力を仰ぎ、この八幡東区で「歴史と未来を考えるワークショップ」を実施いただけたことを大変光栄に思います。

また今回は、八幡の活性化と国際化の推進に対して永年にわたり活動している、八幡夢みらい協議会に活動趣旨をご理解頂き共催を実現できたことが、本ワークショップ実施の大きな後押しとなりました。心より感謝申し上げます。

結びにあたり、ご指導いただいた両大学の先生方はもちろんのこと、企画から実施までを担って頂いた学生の皆さんにも改めて敬意を表すとともに、このワークショップに関わっていただいたすべての皆さまが、これからの八幡の未来に光を灯す存在となっていただけることを切に願っております。

KEYAKI TERRACE YAHATA 会長

井上 龍子

01	はじめに
03	ごあいさつ
05	Part 1 立体折り紙で八幡の建物を作ってみよう！
06	ワークショップポスター
07	折り紙建築作品
10	折り紙建築の制作
11	ワークショップ当日
13	Part 2 八幡 FUN WALK
14	ワークショップポスター
15	九国大コース 八幡の文化と歴史を体感する
16	1 長崎街道 / 2 福岡県電気工事業工業組合八幡支部
17	3 旧八幡病院駐車場屋上より
18	4 国際通り
19	5 牡牛座の月と周辺の建物 / 6 通りの木
20	7 大蔵線跡 / 8 尾倉橋梁 / 9 春の町 / 10 豊山八幡神社
21	西工大コース 古地図と古写真で巡る八幡の歴史
22	旧尾倉村
23	九州鉄道大蔵線・九州電気軌道
24	村野藤吾の建築
25	八幡駅前・けやき通り
26	西本町通り
27	ワークショップの流れ
	参加学生感想
31	九州国際大学 現代ビジネス学部 地域経済学科 地域づくりコース
33	西日本工業大学 デザイン学部 建築学科

八幡の街は、入江奥の一漁村から東洋一の鐵都へ、そして高層マンションや商業施設の集積する住宅都市へと時代ごとに変貌を遂げてきました。また“文化の都”と旧八幡市歌に歌われたように、まちの至る所に芸術作品が鑲められ、この街の地域資源となっています。

しかし、変化の振幅が大きく往年から様変わりした街並みは、まちの各所に散在する往年の痕跡や作品から、この街の歴史やまちづくりに込められた先人の思い、あるいはかつての日常といったストーリーを、時代を超えてひも解くことを難しくさせています。それゆえ地域の歴史や記憶をいかに現在の八幡と関わる多くの人に伝えるかが、私や九州国際大学地域づくりコースの学生たちの地域活動にとっても重要なテーマとなっております。

そうしたなか、八幡夢みらい協議会様と KEYAKI TERRACE YAHATA 様のご紹介とご支援により、西日本工業大学水野貴博先生の研究室と協働して、八幡のまちを地域住民の皆さんと学び、体験するイベントを実施し、さらには、このような報告書として纏めさせていただく機会をいただきました。その成果として、2019 年 11 月 23 日には親子向けワークショップ「立体折り紙で八幡の建物を作ってみよう」、2020 年 2 月 8 日にはまち歩きイベント「YAHATA FUN WALK」の開催に至りました。

水野研究室との連携活動は、立体折り紙という八幡の街の表現手法やまち歩きでの異なる視角など、多くの刺激と学び、そして貴重な経験を得る機会となりました。心より感謝申し上げます。

また、取材にご協力いただいた地域の皆様、イベント参加者の皆様、そして、この活動を主体となって担ってきてくれた両校学生のみなさんに、この場をお借りして感謝申し上げます。

YAHATA FUN WALK はコロナ禍が深刻化する直前に実施することができましたが、本報告書は緊急事態宣言の発令された中での作成となりました。最後に、こうした事態が一刻も早く終息し、再びこのまちをフィールドに人と人との交流が活発にできる日常が取り戻されることを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

九州国際大学 現代ビジネス学部 地域経済学科 地域づくりコース 教授

三輪 仁

官営製鐵所とともに歩み、日本の近代を支えてきた八幡は、文字通り製鐵所を中心として成長してきました。「企業城下町」という比喩的な表現に留まらず、城壁に囲まれたヨーロッパの中世都市で門外の街道沿いに新しい街区が展開したのと同じように、線路に囲まれた製鐵所の門から市街地が発展しています。世界の工業都市の中でも、ここまで工場の施設と市街地が密接な関係をもって発達した例は珍しく、たいへん個性的な都市です。

八幡では、わずか百数十年の間の目まぐるしく変化で、歴史を物語る建築物や町並みの多くが失われたため、その魅力に気づくことが難しくなってしまったのも事実です。しかし、わずかに残された建造物は大切な資産となっており、また、建物が壊されて残っていない場合でも、その歴史の積み重なりがまちに残した記憶や痕跡には意図的にはつくり出せない重みがあり、今後のまちづくりの大きな手掛かりになります。

建築史・都市史を専門とする私の研究室は、これまで学生の演習の一環として、八幡の歴史的建造物の実測や都市形成過程の調査に取り組んできました。次の段階として、わかってきたことを地域の方々と分かち合い、一緒に今後の八幡を考えていく環境を築くことが課題だったのですが、今回、長年にわたり八幡のまちづくりの先頭に立っていらっしゃる KEYAKI TERRACE YAHATA の井上龍子様にお声掛けいただき、すでに地元の方々とともに活動されている九州国際大学の三輪仁ゼミと共同で、初めてワークショップの企画に携わることができました。両団体の皆様とともに、本企画を共催という形で支援していただいた八幡夢みらい協議会の皆様、当日参加していただいた皆様に深く感謝申し上げます。

二つのワークショップでは、目に見えるもの、見えにくいもの、失われたものも含め、八幡の魅力を子供から大人まで様々な方々に感じてもらえるよう、試行錯誤しながら取り組みました。建築学科の学生は紙工作や観光案内に慣れているわけではなく、運営も拙い部分が多くありましたが、学生にとっても世代の異なる様々な方々との接し方を学び、研究と社会との接点を考える良い機会になりました。この企画が、八幡のまちづくりの新しい一歩に繋がることを願ってやみません。

西日本工業大学 デザイン学部 建築学科 教授

水野 貴博

Part 1

立体折り紙で 八幡の建物を作ってみよう！

折り紙建築づくりを通して、子どもたちや地域の人に、八幡の建物や風景に親しんでもらうためのワークショップです。

折り紙建築とは、一枚の紙に切れ込みや折れ線をつけ、折り曲げて立体作品にしたもので、グリーティングカードなどによく用いられています。

八幡にある有名な建造物や、子供たちにとってなじみ深い風景をもとに、9点の折り紙建築作品を大学生がデザインしました。今回のワークショップでは、子供たちにそれを折ってもらい、色づけしてもらいました。参加してくれた36人の子供たちそれぞれが思い思いの作品をつくり、八幡のシンボルである皿倉山の絵の前に並べ、未来に引き継ぎたい八幡の姿に思いを巡らせました。

ワークショップポスター

Yahata art FOREST
やはたアートフォレスト 2019
パレットの樹

立体折り紙で 八幡の建物を作ってみよう！

主催
九州国際大学 地域づくりコース
三輪ゼミ
×
西日本工業大学 デザイン学部
水野研究室

連絡・申込先
九国大・三輪
TEL&FAX 093-671-8931
Mail miwaseminarkiu@yaho.co.jp

日時：11月23日（土）
10：00～12：00

場所：九州国際大学学生食堂

参加無料（事前に電話・FAX・メールで上記まで
申し込み下さい）

対象：小学生以下

八幡製鐵所旧本事務所



1899年に設立された官営八幡製鐵所の最初の事務所として建てられました。当時としては新しかった西洋風の建築物で、左右対称のデザインで中央にはドームがあり、外の壁は赤レンガとなっています。この本事務所を含む製鐵所の初期の建物は、2015年に「明治



日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」として、ユネスコの世界遺産に認定されました。

旧百三十銀行



大正4(1915)年に百三十銀行八幡支店として建てられました。今はギャラリーとして使われています。設計したのは、東京駅や日本銀行などを建てた、辰野金吾という、とても有名な建築家です。赤レンガを使った作品をたくさんつくっています。この建物はレンガ



ではなく鉄筋コンクリートでできていますが、表面の赤いタイルに辰野の作風がよくあらわれています。

大谷会館



昭和2(1927)年、八幡製鐵所ではたらいっている人の娯楽のためのクラブとしてつくられました。外壁に製鐵所から出るごみを再利用した鉾澤レンガがつかわれています。その後、時代とともに運営が八幡製鐵所から離れ、誰でも使えるようになりました



た。現在は独特の落ち着いた雰囲気人が人気を呼び、歓送迎会や忘年会、結婚式などにつかわれています。

八幡市民会館

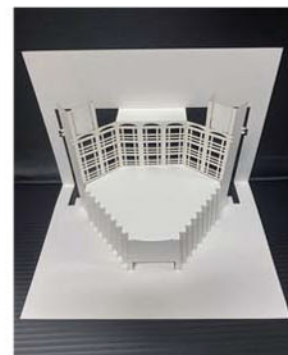


戦争で大きな被害を受けた八幡の復興のために、昭和33(1958)年、八幡市の市制施行40周年に合わせて建設されました。それから50年以上、さまざまな文化活動に利用されてきました。



藤吾という建築家です。外観の茶色のタイルが特徴的で、皿倉山と一体となった風景が市民に親しまれています。

福岡ひびき信用金庫本店



昭和46(1971)年に建てられた銀行で、設計したのは、八幡市民会館と同じ村野藤吾です。交差点に建っていて、角から見ると左右対称です。鉄がさびたような茶色のタイルが重厚感を出しています。特徴的な窓や、左右の端に角のようにとび出したペントハウスの形が



インパクトを強めています。八幡駅前のケヤキ並木と、後ろにある皿倉山の風景によく調和しています。

東田第一高炉 + イノベーションギャラリー

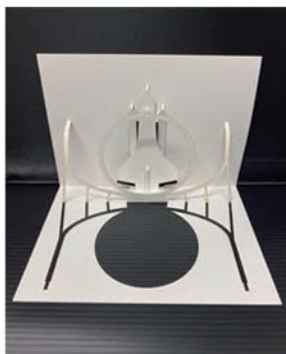


高い煙突が建つ東田第一高炉は、八幡製鐵所で最初にできた高炉で、製鐵所のシンボルでした。その後なんども建て直されて、1972年に操業を終えた10番目の高炉が保存されています。その向かい2007年に開館したイノベーションギャラリー(略称KIGS)は、産



業技術に関する展示施設です。北九州と日本の発展を支えてきたものづくりの技術を体験することができます。

スペースワールド



1999 年、八幡製鐵所が縮小してできた土地につくられた、宇宙をテーマとしたテーマパークです。実物大のスペースシャトルの模型、ジェットコースター「ヴィーナス」、宇宙博物館、月の石の展示などが有名で、子供たちや修学旅行生に人気の場所でした。



2017 年の大みそかに借しまれつつも閉園してしまいましたが、多くの人の思い出に残っています。

いのちのたび博物館



北九州市内にあった、自然史博物館、歴史博物館、考古博物館の3つの施設をいっしょにして、八幡製鐵所の工場跡地に 2001 年にオープンしました。太陽系の誕生から現代までの歴史を展示していて、北九州の産業の歴史も知ることができます。



入口を入ると、迫力のある実物大の恐竜の骨格模型が迎えてくれます。動く恐竜のジオラマも人気です。

桃園公園



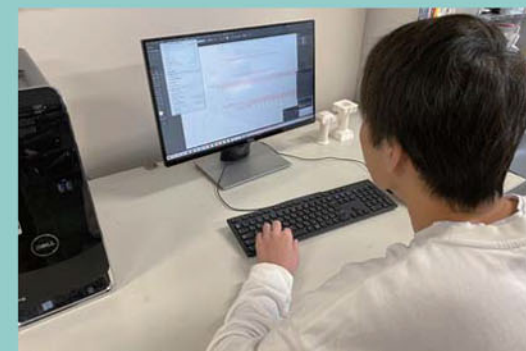
八幡東区のレクリエーションの中心施設で、野球場やテニスコート、ジョギングコース、児童文化科学館などがある大きな公園です。週末には多くの家族連れでにぎわっています。特に子供たちに人気なのが「わんぱく広場」です。宇宙人やロケット、恐竜やカブ



トムシなど、いろいろの形の遊具があります。これらは、子供たちのアイデアをもとにつくられたものです。



八幡のどの建築や風景を折り紙にするか決め、下絵を描いて完成のイメージを構想します。



作品をデザインして CAD データを作成します。



データをレーザー加工機に入力して、切り込み線をカットし、折れ目に罫書きの線を入れます。



カットを終えた状態。



会場設営。背景となる皿倉山の絵を2階デッキから吊るします。



作業スペースも準備。柱には地元の子供たちが描いた八幡の風景の絵を飾ります。



やってきた子供たちは、折り紙建築に自由に色を塗り、折って仕上げます。



折り目が複雑で難しいところは大学生がサポート。



子供たちと大学生が手分けして、山に飾る木の葉を切り紙でつくります。



完成した折り紙建築を山の麓に並べ、風景が出来上がってきます。



つくった木の葉を山に貼り付けていきます。



最後にスタッフで記念撮影。

Part 2

八幡

FUN

WALK

まち歩きを通して、八幡のまちの知られざる姿を学ぶワークショップです。九国大と西工大の学生がそれぞれのテーマに基づいてコースを設定し、旧百三十銀行ギャラリーを起点に巡りました。日頃立ち入ることのできない場所から眺めたり、古地図や古写真と見比べながら歩いたりすることで、気づきにくいまちの魅力や歴史を再発見することが目的です。

10名程度の2グループに分かれ、子供からご年配の方まで、さまざまな年代層の方々を案内しました。戻ってきた後は、北九州市立大学講師の山脇直祐先生による講演で、そもそも八幡というまちはどのようにして現在のまとまりとして成立したのかについて、中世からの現代までの長い歴史の繋がりを振り返りました。

ワークショップポスター

私たちが暮らす八幡の歴史を、
歩きながら学ぶ

2月8日（土）13時00分～16時00分

@ 旧百三十銀行ギャラリー

<募集定員> 20名 <対象> 小学校3年生～大人

主催 九州国際大学 現代ビジネス学部地域づくりコース
西日本工業大学 デザイン学部水野研究室

普段行けない場所を見学できるかも？



八幡

FUN

WALK

☑ ギャラリーを起点・終点に八幡を散策！
→ 西工大・九国大の学生がガイドします！

☑ ギャラリーに帰って振り返り

☑ ゲスト講演

講師 山脇直祐氏（北九州市立大学非常勤講師）
テーマ『八幡とは何だろうか』



旧百三十銀行ギャラリー
北九州市八幡東区西本町1-20-2
TEL/093-661-9130

参加無料、要事前申込

【お申込み】 KEYAKI TERRACE YAHATA [ケヤキ テラス ヤハタ]
(事務局) 八幡駅前開発株式会社 担当：前田
TEL/093-681-0697 FAX/093-681-0699 (平日9時00分～17時30分)

共催



八幡夢みらい協議会
YAHATA Dream & Future Council



KEYAKI
TERRACE
YAHATA

※荒天時はギャラリーでのワークショップ等に変更となる場合があります。



八幡の文化と歴史を体感する



Produced by
九州国際大学
現代ビジネス学部
地域づくりコース



① 長崎街道

この通りは、長崎街道として開かれた道です。長崎街道は、江戸時代に整備された、豊前国小倉（福岡県北九州市小倉北区）の常盤橋を始点として、肥前国長崎（長崎県長崎市）に至る街道です。57 里（約 223.8km）の道程で、途中に 25 の宿場が置かれました。

この界隈には尾倉の氏神さまでもある豊山八幡神社もあり、かつての八幡の中心地でもありました。国道 3 号を越えた鹿児島本線の先にはかつて八幡製鉄所の南門がありました。

通りの向かいの空き地となっている場所には、昨年まで戦前に作られ八幡総合授産所として使われた建物が残っていましたが、取り壊されてしまいました。かつての建物もアパートくらいになってしまいました。



① 高速道路の下を通る長崎街道

長崎街道はシュガーロードとも呼ばれる！

当時の日本で砂糖はとても貴重なものであり、長崎街道はたくさんの人やものが集まるところであったため、街道沿いの地域では砂糖を使った甘いお菓子がつくられるようになったそうです。そのため、別名シュガーロードと呼ばれるようになりました。



① 長崎街道沿いのスイーツ

② 福岡県電気工事業工業組合八幡支部

2019 年 3 月まで長崎街道沿い建物に入居（現在は区内前田に移転）していた福岡県電気工事業工業組合八幡支部青年部は、毎年皿倉山山頂下にイルミネーションをボランティアで設置されています。毎年年末から年明けに点灯するのが恒例でしたが、昨年は改元を記念して「令和」を 5 月から 7 月まで点灯し、11 月の下旬から今年 4 月いっぱいまでは「2020」が点灯しています。

設置場所は急斜面かつデコボコな場所でプロでないと設置できないということで、毎年ボランティアの助けも借りずに少ないスタッフで取り組まれています。同じデザインは二度と使わないことにもこだわっているそうです。



① 皿倉山イルミネーション設置の様子
② 点灯したイルミネーション

③ 旧八幡病院駐車場屋上より

この市立八幡病院は昨年この場所から、かつて尾倉小学校があった向かいへ移転しました。八幡病院は子供医療の拠点として有名で、屋上にはヘリポートも設置されています。八幡にはその他にも製鉄病院、済生会病院などの総合病院も多く、暮らしやすい街としての評価を高めています。



旧八幡病院駐車場
屋上からの眺め

尾倉交差点は 2017 年 3 月までは写真のようなロータリー交差点でしたが、現在はラウンドアバウト交差点に改良されています。ロータリー交差点では交差点に入ってくる車が優先になるのに対し、ラウンドアバウト交差点ではぐるぐる回っている車が優先となります。また、ロータリーでは歩行者が一部遠回りをするようになっていましたが、現在は歩行者が最短距離で横断できるようになっています。



現在の尾倉交差点

ロータリーとラウンドアバウト

八幡大空襲で焼け野原となった八幡の街は、戦災復興都市計画によって近代的な街並みへと作り替えられていきます。1955 年に現在の東田高炉跡の近くにあった八幡駅が現在の場所に移転しました。国道 3 号は八幡駅前の地下を通る形となり、その上に駅前広場ができました。

小伊藤山は削られ公園となり、駅前を皿倉山に向かって伸びる大通りが新しく作られました。その駅前大通と長崎街道と現在の国際通りの合流点である尾倉交差点にめずらしいロータリー交差点が作られました。環状交差点の真ん中には、戦災者の慰霊と八幡の復興を祈るための復興平和祈念像が建てられました。

交差点の南側にあたる場所には、市民会館のほか中央公民館、八幡図書館などの公共施設が集まるエリアができました。

その一方で、区画整理をしたあとの小伊藤山周辺の土地は戦争時の印象も強く、なかなか買い手がなかったそうです。そうしたなかで八幡信用金庫が本店をここに構える判断をし、村野藤吾設計のユニークなデザインの近代建築が登場したことで、その後の復興が進んでいったといわれています。



戦争直後の小伊藤山

村野藤吾は、八幡で育ち、学費を稼ぐために八幡製鐵所で 2 年働いたのち早稲田大学で建築を学び、その後日本を代表する建築家となりました。

村野氏は八幡の復興に多くの建築物の設計という形で貢献しました。現存するのは、福岡ひびき信用金庫本店と病院の手前に見える八幡市民会館になります。市民会館は 4 年前に閉館し建て壊される計画となっていたましたが、反対運動を受けて保存されています。

建物は一見シンプルにみえますが、よくみると単純な部分がほとんどない手の込んだデザインとなっています。建物の右に塔が建っており、これは通気・換気口になりますが、微妙に側面がカーブして左右非対称になっています。この建物の今後については、現在小倉にある北九州市立埋蔵文化財センターが移転する計画が立てられています。

すでに取り壊された村野建築として、現在さわらびガーデンモールのある高層マンションの場所には平和ビルが建てられていました。戦災復興住宅として建てられ、村野藤吾はその建物の第一棟のみを設計しました。外壁はタイル張り一部にガラスブロックが使用され、一住戸の面積も広く全戸に浴室がついているという、当時ではかなり高級な仕様でした。また、現八幡病院駐車場入り口のあたりには先代の八幡図書館がありました。



村野藤吾



平和ビル



旧八幡図書館

④ 国際通り

この通りが国際通りと呼ばれるようになったきっかけは、1989 年にこの通り沿いに JICA、国際協力機構九州センターが開設されたことにあります。これに合わせて国際通りと名付けられ、山手通りとの交差点の手前に世界地図の描かれたゲートが設置されました。かつては平野中央通りと呼ばれていましたが、地元の人からは町の中心通りや街道を意味する“往還”とも呼ばれていたそうです。

この道路の真下には水路が通され、製鉄所で鉄の冷却などに使用された水のリサイクルが行われていました。ポンプ場によって製鉄所の排水は斜面を吸い上げられ、その東側にある平野池という貯水池に貯められました。不純物は池で沈殿させたのち、西からのびるまっすぐな道の下を通して送られた遠賀川の水とともに製鉄所に戻されていくことになります。製鉄所の排水は温かかったため、平野池はお湯のたまった湯池とも呼ばれていました。

戦後になると製鉄所の浄水設備も整備され、池は不要になり、埋め立てられ、テツビルボウルという現在のスピナが経営するボウリング場が設置されました。その後、健康診断の施設などに使われましたが、現在は取り壊され空き地となっています。



昭和 45 年の国際通り周辺

5 牡牛座の月と周辺の建物

こちらの「牡牛座の月」と名付けられた彫刻は、1987年に東田で行われた「国際鉄鋼彫刻シンポジウム八幡」で作られた作品の一つです。八幡製鐵所より300トンの鉄鋼が無償で提供され、10作品が作られました。型作り・鋳造・溶接には市内の鉄工所が携わりました。世界的な彫刻家のイギリスのフィリップ・キング氏がデザインし、職人の技術と多くの労力で巨大な作品が完成しました。若松でつくられましたが、あまりに重くて若戸大橋を通れず、船で運んだそうです。制作ボランティアには私たちの先輩にあたる八幡大学の学生も多く携わったそうです。

この周辺のあちこちに立つ鉄の彫刻が、落ち着いた街並みに色を添え、この街が鉄で栄えた歴史を現代に伝えています。

この周辺はかつて製鉄所の社宅街でした。現在は文教地区となり、北九州の文化・教育の拠点となっています。

1995年にオープンした響ホールを設計したのは、瀬戸内海の直島の公共建築も手がけた石井和紘です。八幡を支えた素材である鉄鋼、ガラスがふんだんに使われ、音響効果を高めるために、製鉄所の廃棄物を再利用した鉾澤レンガが使われています。

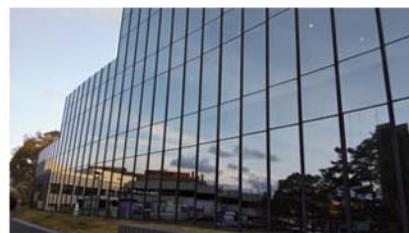
ユニークな曲線とガラス張りの外壁が特徴ですが、皿倉山などの緑の多い景観が映り込むように、そして公害を克服してこの街に戻ってきた青空が映るようにという意図が込められているそうです。



↑八幡の主な彫刻作品



↑石井和紘



↑響ホール

6 通りの木

北九州市では主な通りにシンボルとなる木が設定されています。尾倉交差点南方から響ホール正面へと延びるこの通りでは、「なんじゃもんじゃの木」になります。正確には「ひとつばた」といい、キンモクセイなどの仲間です。春になると白い小さな花がたくさん付きます。

国際通りは「こぶし」の木です。春が近づくと白い花が咲き誇ります。



↑なんじゃもんじゃの木



↑こぶし

7 大蔵線跡

大蔵線は九州鉄道の門司と黒崎を結ぶ路線の一部として1891年に開通しました。国鉄の発足後、小倉－黒崎間は戸畑を通る路線が八代線（現在の鹿児島本線）に組み込まれ、この路線は大蔵線と呼ばれるようになりました。しかし、1911年、開業からわずか20年で廃線となりました。

大蔵線のルートは、当時の日本の国力や周辺情勢を考慮した軍部からの強い要請から、鉄道を引きやすい海側を通らず、小倉から到津の山の裏を通り八幡へと向かうルートがとられました。

八幡でも帆柱山系の山すそに沿って線路が設けられました。その名残として、張り出した尾根を削った跡が石垣となって現在も残っています。



↑大蔵線の石垣跡

9 春の町

ここ春の町は、かつてお店などが多く集まっていた。春の町から延びる道は先ほどの大蔵線跡の道と違って西の八幡病院の方角に向かってまっすぐ伸びていますが、ひじょうにアップダウンが激しくなっており、これまで通ってきた比較的平坦な大蔵線と対照的です。

この周辺から豊山八幡神社のある丘に向かって尾根が伸びていました。

➡アップダウンの激しい道



8 尾倉橋梁

ここが谷となっていたところに掛けられた橋、尾倉橋梁になります。赤レンガで覆われていますが、縦置き、横置きでのレンガの層が交互になった、イギリス積みと呼ばれる工法が使われています。

アーチ部分は表面が凸凹になるように長さの違うレンガが交互に積まれており、これを下駄歯積みと呼びます。土台の部分には花崗岩が使われています。

この橋のめずらしい点は、その上に人家が建てられて生活が営まれていることです。



↑尾倉橋梁



↑尾倉橋梁下のトンネル



➡尾倉橋梁の上の家並み

10 豊山八幡神社

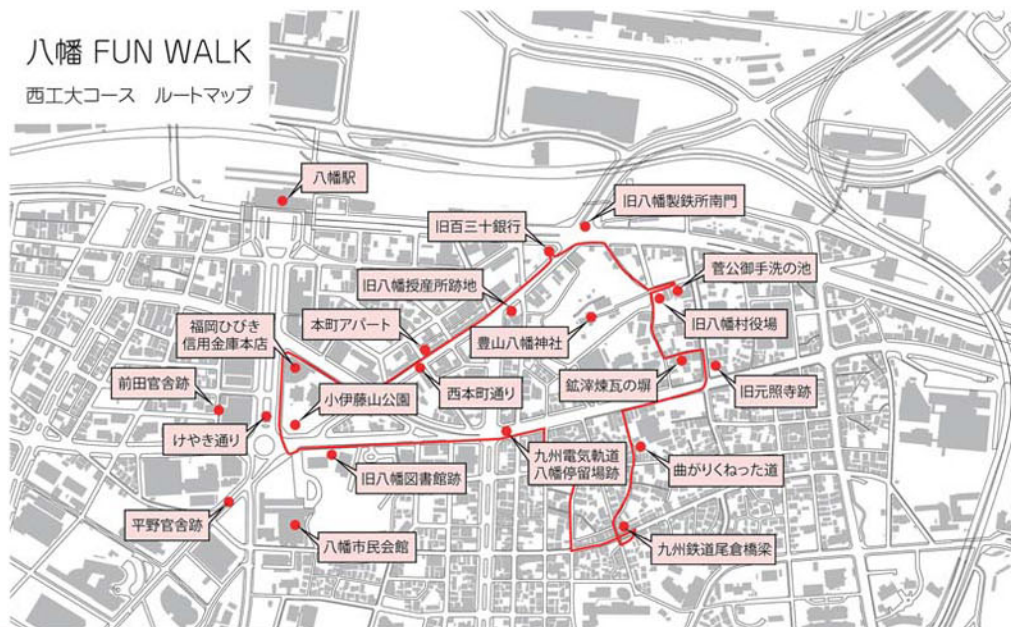
この豊山八幡神社は尾倉地域の氏神でもあり、明治期にはこの辺りに役所が置かれたそうです。現在はボツンと丘として残っていますが、かつては皿倉山から尾根が海の方に伸びていたのが、まちの発展とともに山が丘に分断され、やがて丘も削られていった最後の名残とも言えます。



➡背後から見た豊山八幡神社の丘

古地図と古写真で巡る八幡の歴史

西工大コース ルートマップ



旧尾倉村



1900 年の地図では、長崎街道以北が製鐵所の敷地になっていますが、集落はまだ小規模です。



3 菅原道真が立ち寄ったといわれる池。左手前の旗竿土台は天保4（1833）年に奉納された、八幡では数少ない江戸時代の痕跡。



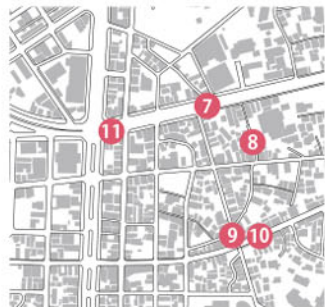
A narrow alleyway in a traditional Japanese neighborhood. On the left, there is a yellow building with a white window frame. On the right, there is a stone wall. The alleyway leads towards a street with more buildings and power lines in the background.

⑥ 製鐵所設立時、土地の売却に反対した村人が立てこもった元照寺は、このあたりにありました。

北九州の東西を繋ぐかつての動脈

九州鉄道大蔵線・九州電気軌道

八幡を通っていた鉄道には、鹿児島本線の前身の九州鉄道戸畑線（1902-）以外に、九州鉄道大蔵線（1891-1911）、九州電気軌道（後の西鉄北九州線、1911-92）がありました。この2路線の痕跡を歩きます。



旗生川



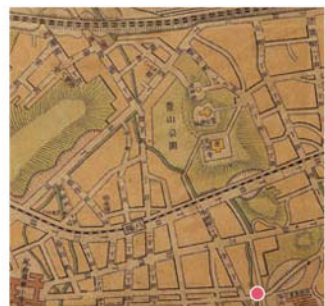
7 道が少し低くなっていると
ころは川が流れていた跡です。



8 曲がりくねった道の下に今
でも川が流れています。



1900年の地図。九州鉄道大蔵線
が描かれています。●の位置が尾
倉橋梁。



1922年の地図。旗生川と九州電
気軌道が描かれています。●の位
置が尾倉橋梁。

九州鉄道大蔵線尾倉橋梁



9 川の跡をたどると、レンガ
造のトンネルに着きます。



川のつくった谷に鉄道橋が架け
られていました。



レンガを下駄歯のように積ん
でいるのは、将来の橋の拡幅
を想定していたからです。



10 橋の上のかつての線路沿い
には家が建ち並び、まちが立体
交差になっています。

九州電気軌道



11 かつて停留所があった位置。



廃止前の路面電車。

鉄さび色のまちなみの原点

村野藤吾の建築

村野藤吾は八幡で育ち、製鐵所で働いていたこともあり、八幡に深い思い入れがあった建築家でした。戦
後復興で誕生した駅前のけやき通りの周辺に、赤茶色の色合いの作品をいくつも残しています。



村野の用いた素材

鉾澤レンガ



製鐵所のスラグを再利用した
灰色のレンガ。八幡では古い
壁や塀に今でも見かけます。

塩焼きタイル



独特の風合いがありますが、
窯を傷め、公害が出るため、
今では生産されていません。

旧八幡図書館（1955）



12 2016年に取り壊された旧
図書館。



跡地には、外壁のレンガを再
利用した記念碑があります。



赤レンガと白く塗った鉾澤レ
ンガを組み合わせています。

八幡市民会館（1958）



13 壁には塩焼きタイルが用
いられています。



滑らかな曲面の壁と軽やかな
薄い屋根が特徴です。



今は入れませんが、内装にも
滑らかな曲面が見られます。

福岡ひびき信用金庫本店（1971）



14 駅前の通りの角地にあり
ます。村野の晩年の作品です。



市民会館に似た滑らかな曲面
と、角のスリットが特徴です。



ピロティで浮き、重たさと軽
やかさが両立しています。

焼け跡に生まれた戦後の都市計画

八幡駅前・けやき通り

戦前の八幡駅は現在よりも 800m ほど東にあり、駅を中心とした街区もありませんでした。皿倉山に向かう広い大通りの都市軸は、戦後の復興計画で生まれたものです。



1887 年の地図に、後の製鉄所と官舎の位置を加筆。多くが尾倉村の集落に隣接して建設されたのに対し、前田・平野官舎は長崎街道沿いの、山を隔てた場所に建設されました。



古写真でも、尾倉村と前田官舎が小伊藤山で隔てられていたことが確認できます。



15 前田官舎 (上) は空襲で全焼 (下)。



1936 年の前田・平野官舎。



16 平野官舎跡地は九州国際大学などになりました。



17 建設当時の駅前の通りとロータリー。



18 小伊藤山跡地の公園。



防空壕で多くの死者を出した小伊藤山は、戦後取り崩されました。



19 1981-2001 年には八幡駅に自然史博物館がありました。

街道から製鉄所の門前町へ

西本町通り

旧百三十銀行前の西本町通りは、旧長崎街道の一部でしたが、製鉄所ができてからは、南門と前田・平野官舎を結ぶ通勤路となり、繁華街となりました。ヨコの道からタテの道に変化した通りです。



20 1877 年の地図。長崎街道沿いに樹木の地図記号が見えます。



黒崎の曲里の松並木のように、植樹されていたのかもしれない。



21 戦後に建設された本町アパート。下が商店、上が住宅でした。



戦前の西本町。西洋風の銀行や百貨店が並ぶ華やかな通りでした。



22 2019 年に取り壊された旧八幡授産所。戦前は呉服店でした。



23 旧百三十銀行。辰野金吾設計の、鉄筋コンクリートの建物です。



戦前の様子。この銀行は、現在この通りで唯一の戦前の建物です。



戦後、国道 3 号の拡幅に伴って、80m ほど曳家されました。



24 戦後直後の現国道 3 号。道幅が今と全く違います。



25 かつて製鉄所の南門だったあたりです。



明治末期の南門。

ワークショップの流れ 2020.02.08

旧百三十銀行ギャラリー



事前に何度も下見をしてコースを作成します。



当日朝の会場設営。各研究室の過去の研究のパネルを旧百三十銀行ギャラリーの壁に展示します。



集まった方々を前に、まず趣旨説明と各コースの紹介を行います。



こちらは九国大コース。資料を配って学生が解説を始めます。長崎街道から反時計回りに歩きました。



口頭で伝わりづらい言葉はフリップにしました。



国際通りに入り、九国大キャンパス近辺の知られざる見どころを巡ります。



二つのコースに分かれて出発です。



日頃なら見過ごしてしまう街路樹にも注目します。

2020.02.08

旧百三十銀行ギャラリー



西工大コースは、豊山八幡神社前から時計回りに巡りました。



パネルにした古地図や古写真と現状を見比べながら歩きます。



普段あまり通らないような道をぞろぞろと集団で歩きます。「プラ○モリみたい」と言う声も・・・



みなさん熱心に聞き入ってくださいました。



旧百三十銀行に戻った後は、参加しなかった方のコースの概要を知るために、各ルートのおさらいをします。



山脇氏の講演の様子。



その後は、山脇直祐先生による記念講演です。



最後はスタッフ全員で記念撮影。

参加学生感想

(学年はワークショップ当時)

九州国際大学 現代ビジネス学部 地域経済学科 地域づくりコース

3年



石松 杏菜

八幡の魅力や面白さを知ってもらい、この街に少しでも興味をもっていただくことが目標でしたが、達成することができたと思います。ポスター作り、ルートの下見と説明、現場の準備など様々に携わりましたが、どれもイベントを成功させるためには欠かせないので、貴重な経験になってとても良かったです。



落合 海斗

今回のコラボイベントでは主に準備や写真撮影等の裏方作業を行いました。参加者の方に安心して参加して頂くためにはどうすれば良いか考え準備することがとても大変でした。今回のコラボイベントを今後の地域づくり活動に活かしていきたいと思います。



坂村 駿

今回のまちあるきイベントの中で、私はクイズの立案を担当しました。今回の企画を通して、参加者の方に八幡のまちについてより深く知ってもらえる事ができ、とても嬉しく思いました。



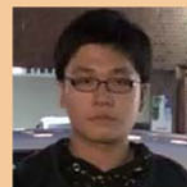
竹之内 美幸

立体折り紙では会場作りや準備をはじめ、子供達が楽しめるようにイベントの内容を工夫しました。まちあるきではルート決めと説明をする時の参考に、八幡の歴史に詳しい方にインタビューなどを行い、情報集めに力を入れました。様々な世代の方と交流したり体感しながら学び、歴史を繋げていくことの大切さを改めて学びました。



谷口 由莉

折り紙では、子供たちに葉っぱやもみじ、花をモチーフにしたものに好きな色を描いてもらいました！説明する際に理解してもらうためにはどういう風に言うと伝わりやすいかを工夫をしているのは難しかったですが、このことを活かしてまちあるきのときでも説明を必要とされた時理解していただけるように頑張りました。



宮野 和臣

立体折り紙では親子で楽しめるような企画と、快適に折り紙を作る会場づくりに、まちあるきでは参加者の安全確保に苦心しました。二つの活動を通して、イベントを行うことの難しさを知ると同時に、子供たちに八幡のまちについてもっと興味を持ってほしいという思いが強くなりました。

2年



戸高 茉里奈

まちあるきに向けて、自分が説明を担当する場所の下調べや、どうすれば分かりやすく説明できるかなど準備をしました。当日は緊張しましたが、自分も楽しく活動することができました。八幡について学んだことをこれからのゼミの活動でも活かしていきたいです。



波多野 朱美

まちあるき企画を通して八幡の知らなかった場所や気づかなかった発見などをする事ができました。普段から大学まで通っているにも関わらず気づくことの出来なかった場所や、街の魅力に気づくことが出来ました。もっと八幡に詳しくなれるように色んなところを歩いてみたいと思いました。

3年



伊藤 靖倅

折り紙を作るのも難しかったですが、もっと大変だったのはまち歩きでした。建物の解説が担当だったのですが、なかなか探している情報載っている資料を見つけられず苦労しました。建築のことに詳しい方から子供まで、すべての人にわかりやすく興味を持ってもらえるように説明するのが難しかったです。



片山 龍二

パソコンで図面を描いたことがほとんどなかったので、折り紙を設計するのは大変でしたが、いい練習になりました。まち歩きは、最初はどんなことになるか想定がつかなかったけれど、解説していない時間も子供たちと話したりして、楽しんでもらえるように頑張りました。



久保 侑大

街歩きの解説は、準備のときも、どの世代向けに説明したらいいのか、地元の参加者が知らないことまで調べられるのか不安でした。ですが当日の説明の方がもっと難しかったです。いろいろ考えていたのですが、歩きながらということもあって、うまく説明できずに終わり、少し心残りです。



中村 拓也

ワークショップ当日は思っていたよりすんなりできましたが、大変だったのは折り紙建築の制作でした。いちばん難しい建物の担当になってしまい、最初は苦戦しました。ゼミが終わった後や休みの日なども作業を続けて少しずつ改善して、ようやく完成させることができたときはほっとしました。



原 有輝

折り紙は教えるのが難しかったですが、皆楽しそうに好きな色を塗っていて、和やかな雰囲気の中でよい経験ができました。町歩きの担当だった百三十銀行と西本町には説明するポイントが沢山あったため、どこをピックアップしたら時間内にわかりやすく伝えることができるか準備することに少し苦労しました。



増元 崇矢

折り紙ワークショップは子供たちだけに手順を説明すればよかったので、楽しくできましたが、街歩きでは参加者が子供から年配の方まで幅広かったので、わかりやすく伝えるのに悩みました。最後に参加者の方に「こんな歴史は知らなかった」と喜んでもらったことが嬉しかったです。

歴史と未来を考える

八幡ワークショップ 2019-20

2020年5月7日 発行

主催



事務局：八幡駅前開発株式会社

〒805-0061

北九州市八幡東区西本町 4-1-1

tel: 093-681-0697 fax: 093-681-0699

共催



事務局：福岡ひびき信用金庫本店内

〒805-8520

北九州市八幡東区尾倉 2-8-1

tel: 093-661-2417 fax: 093-671-2717

企画実施 九州国際大学 現代ビジネス学部 地域経済学科 地域づくりコース

三輪仁ゼミナール

〒805-8512 北九州市八幡東区平野 1-6-1

tel & fax: 093-671-8931

e-mail: miwa@cb.kiu.ac.jp

西日本工業大学 デザイン学部 建築学科

水野貴博研究室

〒803-8787 北九州市小倉北区室町 1-2-11

tel: 093-563-3443 fax: 093-563-2220

e-mail: tmizuno@nishitech.ac.jp